

農推第1585号
平成30年6月20日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（6月）

大阪府内の6月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
雨の多いこの時期は病害が発生しやすくなります。気象情報に注意して予防的防除に努めましょう。
6月から8月は農薬危害防止運動月間です。農薬の安全かつ適正な使用を徹底し、農薬の使用に伴う事故・被害を防止しましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針

▼病害虫防除グループホームページ新着情報

- ✓ 平成30年度版 Web版大阪府農作物病害虫防除指針を掲載しました！
- ✓ 平成30年6月15日発表の防除情報「シロイチモジヨトウが増加中！」を掲載しました。

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

目次

1 水稲	P. 1
2 果樹(ぶどう、もも、温州みかん、いちじく、果樹類全般、バラ科果樹)	P. 2~6
3 野菜(なす、トマト・ミニトマト、たまねぎ)	P. 7~9
4 野菜類・花き類	P. 10
5 きく	P. 11

水稲

6月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病			
				縞葉枯病		
			ヒメトビウンカ			
					ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	

いもち病



葉いもち

特徴

- ◆多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆補植用の苗が発生源になることが多いので、早めに処分する。
- ◆発生が予想される場合は、**ビームプリンス粒剤**や**ブイゲットフェルテラ チェスL粒剤**、**ツインターボフェルテラ箱粒剤**などの箱施用剤を処理する。
- ◆いもち病の常発ほ場で箱施用剤を使用しない場合は、初発の7～10日前までに、**オリゼメート粒剤**、**フジワン粒剤**、**コラトップ粒剤5**などを散布する。
- ◆発生を認めたら**ブラシフロアブル**などを散布する。

縞葉枯病、ヒメトビウンカ



縞葉枯病発病株

ヒメトビウンカ※

特徴

- ◆縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。

防除のポイント

- ◆育苗ほにヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。
- ◆箱施用剤等により、ヒメトビウンカの防除を徹底する。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）



成貝

卵塊

特徴

- ◆田植直後(約20日後まで)に加害されることが多い。

防除のポイント

- ◆ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。
- ◆水深4cm以下では自由に移動できないので、田植後の浅水管理が有効。
- ◆田植直後に**スクミンペイト3**、**スクミノン**、**ジャンボたにしくん**などを散布して、食害を防止する。

注)スクミノン、ジャンボたにしくん使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしない。

詳しい生態や防除方法については、ホームページに掲載しているカラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう!」を参照してください。

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/color/color.html>



果樹

6月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				灰色かび病		
				べと病		
				チャノキイロ アザミウマ		
もも					せん孔細菌病	
				シンクイムシ類		
みかん				黒点病		
				ミカンハダニ		
				カイガラムシ類		
いちじく				アザミウマ類		
				イチジクヒトリモドキ		
果樹類全般					果樹カメムシ類	
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ 発生に注意					

ぶどう

灰色かび病



特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆胞子(分生胞子)が風などによって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆発生を認めたら、フルーツセイバー(7日前まで)、オンリーワンフロアブル(前日まで)、ピクシオDF(前日まで)などを散布する。

べと病



特徴

- ◆雨が多いと発生しやすいので、梅雨など雨が続きとまん延しやすい。

防除のポイント

- ◆露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要。
- ◆予防的にICボルドー66D、ICボルドー48Q、ストロビードライフフロアブル(14日前まで)、レーバスフロアブル(7日前まで)、ゾーベックエニケード(14日前まで)などを散布する。
- ◆農薬を散布する際は、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

チャノキイロアザミウマ



被害果実 *

特徴

- ◆巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きいので注意する。

防除のポイント

- ◆コルト顆粒水和剤（前日まで）、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤（前日まで）、モスピラン顆粒水溶剤（14日前まで）などを散布する。

注)コルト顆粒水和剤を幼果期以降に使用する場合は、果粉溶脱を生じるおそれがあるので注意する。

もも

せん孔細菌病



特徴

- ◆降雨、強風によって発生が助長される。
- ◆果実は幼果～未熟果期に感染しやすい。

防除のポイント

- ◆発病葉、発病果実は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆発生が見込まれる時期に、バリダシン液剤5（7日前まで）、スターナ水和剤（7日前まで）などを散布する。
- ◆気象情報を確認し、風雨が予想される場合には、事前に薬剤を散布する。

シンクイムシ類



被害果実

特徴

- ◆ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆産卵期から幼虫加害期（5月上旬～7月下旬）にモスピラン顆粒水溶剤（前日まで）、アディオン乳剤（7日前まで）、ダントツ水溶剤（7日前まで）、サムコルフロアブル10（前日まで）などを散布する。

薬剤を散布する際は、他の病害虫の発生状況も確認して薬剤を選択する。

温州みかん

黒点病



特徴

- ◆梅雨期など降雨が多くなると発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ジマンダイセン水和剤（30日前まで）、ペンコゼブ水和剤（30日前まで）、エムダイファー水和剤（60日前まで）などを散布する。
- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。
※かんきつ（みかんを除く）では3剤とも使用時期が収穫90日前までなので注意する。

ミカンハダニ



被害葉 ※

特徴

- ◆梅雨明け後に発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆6月中～下旬に、ハーベストオイル、トモノールSなどのマシン油剤を散布する。
- ◆発生を認めたら、ダニエモンフロアブル（7日前まで）、コロマイト水和剤（7日前まで）などを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

カイガラムシ類



フジコナカイガラムシ※

特徴

- ◆フジコナカイガラムシなどのコナカイガラムシ類のほかに、ナシマルカイガラムシ（サンホーゼカイガラムシ）やヤノネカイガラムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆幼虫発生期にアプロードフロアブル（幼虫のみ、14日前まで）、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤（前日まで）、コルト顆粒水和剤（アカマルカイガラムシ類を除く、前日まで）などを散布する。

防除適期（第1世代幼虫発生期）は例年

- ・コナカイガラムシ類：6月中～下旬
- ・ナシマルカイガラムシ：6月上～中旬
- ・ヤノネカイガラムシ：5月下旬～6月下旬

頃であるが、気象条件や標高によって変わるので
ほ場ごとに確認するのが好ましい。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

いちじく

アザミウマ類



被害果実

特徴

- ◆果実内に侵入し食害する。

防除のポイント

- ◆園地周辺の除草を行う。
- ◆ディアナWDG（前日まで）、スピノエース顆粒水和剤（前日まで）などを散布する。

イチジクヒトリモドキ



特徴

- ◆若齢幼虫は表皮を残すように食害する。
- ◆卵は若い葉に卵塊で産卵され、若齢幼虫は集団で加害する。

防除のポイント

- ◆新梢の発生時期に加害されると被害が大きいため、初期防除に努める。
- ◆園地周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、アディオンの乳剤（前日まで）、モスピラン顆粒水溶剤（前日まで）などを散布する。

果樹類全般

果樹カメムシ類



クサギカメムシ

特徴

- ◆クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、チャバネカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、アディオンの乳剤（かんきつ、もも、かきなど）
スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（かんきつ、もも、かきなど）などを散布する。

注）作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

今年の大阪府での発生はやや多く、近畿地方では発生が多い予想がされているので、それぞれのほ場での発生状況を確認する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ 成虫の発生時期です！ 見つけたらその場で捕殺しましょう！！



成虫

幼虫



うどん状フラス



中華麺状フラス

特徴

- ◆成虫は体長3～4cm(触覚含まず)。全体は光沢ある黒色で、前胸は明赤色。6～8月頃に羽化、幹や樹皮の割れ目に産卵し、8～9日後には卵が孵化する。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。4月頃から中華麺状やうどん状のフラス(木くず・糞・樹脂の混合物)を出す。
- ◆中華麺状やうどん状のフラスが出ている穴には幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫はうどんよりも細い(中華麺状)フラスを出すことがあり、この時期の防除が効果的。



被害枝



ネット被覆(もも)

防除のポイント

- ◆成虫を見つけたら捕殺する。
- ◆フラスが見られた樹は幼虫が生息している可能性が高いので、成虫が羽化する6月上旬頃までに、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切るので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだい捕殺する。
- ◆伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に突っ込み、中のフラスをかき出してからロビンフッド(前日まで)、ベニカカミキリムシエアゾール(前日まで)を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

4月11日付で防除情報「クビアカツヤカミキリに警戒！！」を発表しました。
 詳細はホームページを参照して下さい。 <http://www.jpnn.ne.jp/osaka/>



野菜

6月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病			
				灰色かび病		
				アザミウマ類	うどんこ病	
トマト・ミニトマト (施設栽培)			葉かび病・ すすかび病			
				灰色かび病		
			コナジラミ類			
非結球あぶらな科 葉菜類				コナガ		

なす

すすかび病



防除のポイント

- ◆保温のためハウスを閉め切ることが多くなるが、適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆発生を認めたら、スコア顆粒水和剤（前日まで）、トリフミン乳剤（前日まで）、カンタスドライフロアブル（前日まで）などを散布する。

灰色かび病



特徴

- ◆過湿・過繁茂で発生しやすくなる。

防除のポイント

- ◆花がらから感染が始まることが多い。
- ◆発生を認めたら、セイビアーフロアブル20（前日まで）、ゲッター水和剤（前日まで）、ピクシオDF（前日まで）などを散布する。

うどんこ病



特徴

- ◆窒素過多で曇天が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤（前日まで）、プロパティフロアブル（前日まで）、スコア顆粒水和剤（前日まで）などを散布する。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 苗からの持ち込みによる発生が多く見られている。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ディアナSC（前日まで）、プレオフロアブル（ミナミキイロアザミウマ／前日まで）、モベントフロアブル（前日まで）などを散布する。

トマト・ミニトマト

葉かび病・すすかび病



特徴

- ◆ 日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
《すすかび病》
- ◆ 近年、増加傾向にある。葉かび病よりかびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、トリフミン水和剤（前日まで）、スコア顆粒水和剤（トマトのみ／前日まで）などを散布する。

灰色かび病



特徴

- ◆ 低温多湿時に発生が多い。花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ロブラール水和剤（前日まで）やアフエットフロアブル（前日まで）などを散布する。

コナジラミ類



タバココナジラミ ※

特徴

- ◆コナジラミ類がTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4 mmのネットを展張する。
- ◆ベストガード水溶剤（前日まで）、スタークル顆粒水溶剤・アルバリン顆粒水溶剤（前日まで）などを散布する。

非結球あぶらな科葉菜類

コナガ



成虫 ※



幼虫 ※

特徴

- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。

野菜類・花き類全般

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

6月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類 花き類(全般)				アブラムシ類		
				オオタバコガ		
					シロイチモジヨトウ	

アブラムシ類

特徴

- ◆作物を吸汁し、樹勢を弱らせる。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。
- ◆発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど）、アドマイヤー顆粒水和剤（なす、トマト、ミニトマト、豆類（未成熟）など）、コルト顆粒水和剤（なす、トマト、ミニトマト、アスパラガス、花き類など）

アブラムシ類 ※

オオタバコガ

特徴

- ◆果実や茎などに食入し、食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、きくなど）などを散布する。

なすの花に寄生するオオタバコガ幼虫

シロイチモジヨトウ

特徴

- ◆ねぎでの発生が多いが、マメ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎなど）、ディアナSC（ねぎ）、アフーム乳剤（ねぎ、しゅんぎく、花き類など）、プレオフロアブル（ねぎなど）などを散布する。

詳しくは6月15日発表の防除情報
「シロイチモジヨトウが増加中！」を参照
<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>



- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>)
- 農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

きく

6月前半の病害虫発生状況

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく			白さび病		
			黒斑病・褐斑病		
		アザミウマ類			

白さび病



特徴

- ◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

防除のポイント

- ◆ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。
 - ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
 - ◆ストロビーフロアブル等を散布し、予防に努める
 - ◆発生を認めたら、トリフミン乳剤を散布する。
- 注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。
他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

黒斑病、褐斑病



黒斑病*

特徴

- ◆雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。

防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
 - ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布して予防する。
- 注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では薬害の恐れがあるので使用しない。
他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ※

特徴

- ◆品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆花卉にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマ等が発生し、葉には主にクロゲハナアザミウマ等が発生する。
- ◆ミカンキイロアザミウマはウイルス病（TSWV、CSNV）を媒介する。

防除のポイント

- ◆発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC、アフーム乳剤などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。